きになる ワクチン接種

監修・伊藤小児科
院長　伊藤　佑士

皆さんは、自分が受けてきたワクチンの種類を、ちゃんと覚えていますか？

「ハンコ注射」って、何のワクチン？何回受けたか記憶にないな：なんて人も多いのではないでしょうか。今、大人だからこそ、考えてほしい、覚えておいてほしい「ワクチン接種」の実態があります。プレママ・パパはもちろん、将来の「じいじ、ばぁば」も一緒に考えてみてください。

今、生まれてくる赤ちゃんたちのワクチン接種は、生後2か月以降から始まります。赤ちゃんを持つお母さん、お父さんなら、誰もがその種類の多さと、スケジュール調整に頭を悩ませることでしょう。

赤ちゃんが1歳前に接種する主なワクチンだけでも7種類。何回かに、わけて接種するワクチンや、1種類でも期間を置いての接種など、複雑です。せっかくスケジュールを立てたのに、体調が悪くて台無しに…なんてことも。

同時接種していいの？どれから受ければいいの？ホントに必要なの？という悩みも尽きないと思います。

すべての赤ちゃんに、この順序に従ってくださいと言うことはできません。市が行う定期健診や、かかりつけ医の先生と相談して接種を進めてください。また、情報に振り回されないように、基礎知識を学んでください。

赤ちゃんが生まれる前、特に若い男性に受けておいてほしいワクチンもあります。みんなで「ワクチン接種」「感染症予防」を考えましょう。

カルテ① ワクチンで防げる主な病気

●「感染症」は、ウイルスや細菌などが体内に入り、それが増加することで発症する病気です。免疫（抵抗する能力）を持っていると、かからなかったり、症状が重くなりません。子どもがかかりやすい感染症は、症状が重くなったり、後遺症をおこしたり、命の危険に関わる病気もあります。かかる前に免疫をつけておくことが大切です。

・ジフテリア　・百日せき　・破傷風　・ポリオ　・麻しん風しん
・日本脳炎　・結核（BCG）　・ロタウイルス　・小児肺炎球菌
・インフルエンザ菌ｂ型（ヒブ）　・おたふくかぜ　・みずぼうそう など。

▲これらは、ワクチンで予防できる主な病気の例です。皆さんの経験から、「自然にかかって免疫を獲得する」と思う病気もあるかもしれませんが、稀に重症化してしまう現実があります。何より、自分や子どもが感染源になって、人にうつさないことも重要です。

※ワクチン接種の様子は、市立山香病院で撮影。

【9月から導入】不活化ポリオワクチン

不活化ポリオワクチンの定期接種での導入は、平成24年9月1日からです。今年度当初に予定していた10月の生ポリオワクチンの集団接種は中止します。

ポリオ予防接種対象年齢内で、ポリオ未接種または生ポリオワクチンをすでに1回接種したお子さんには、改めて個別通知します。

【ご注意】
9月の不活化ポリオワクチン導入当初は、接種希望者が集中し、ワクチン不足になることが懸念されます。ワクチン供給量をみて、9月以降に順次お知らせしますので、通知を受けてから、接種を検討してください。

カルテ② ワクチンは高い？

●ワクチンは、「定期接種」と「任意接種」に分けることができます。

定期接種は、その接種が法律で定められ、対象年齢であれば、無料で受けることができます。

一方、任意接種は、ほとんどが全額自己負担です。何回か接種が必要なものもあるので、決して安い金額ではないものの、「受けなくてよい」という意味のワクチンではありません。

●「どちらがお得か？」というわけではありませんが、感染症にかかるだけで、通院や看病のための費用、家族にうつる場合もあります。重症化してからでは、後悔しても遅いのです。なるべく接種しましょう。

カルテ③ 安全性は？副反応は？

●ワクチンは、接種した後の副反応が怖いと思っている人がいるかもしれません。しかし、ワクチン未接種のため、免疫を獲得していないときにかかり、重症化してしまうことがあります。不安なときは、何度でもいいので医師と相談し、正しい理解に努めましょう。

●副反応は接種した所が赤くなったり、稀に熱が出たりする以外にも、病気の発症や合併症など、重大なものもあります。しかし、これらは必ずしもワクチン接種が原因だとは断定できない場合が多く、むしろ接種後にたまたま起こった紛れ込み事故の可能性が高いといわれています。

杵築市の「麻しん・風しんワクチン」接種率は、県内最低レベル！

「麻しん（はしか）」は、感染力がとても強い感染症です。

麻しんは合併症を発症し、重症化したり、後遺症を残すことも多く、怖い感染症です。さらに、免疫を持っていないと、自分が感染源になってしまいます。

また、「風しん」は、妊娠初期の妊婦がかかると、赤ちゃんに先天性の障害が起こる確率が高くなります。

女性だけでなく、男性も自身が感染源になってしまわないように、必ず接種しましょう。

ワクチン接種は、子どもだけのものではなく、みんなで接種して、感染症を予防しましょう。

任意は1万円　赤ちゃんだけじゃない 大学受験生は特に注意！

最近は、大学入学の際に「麻しん」などの予防接種を済ませておくことを求められることがあります。

無料で接種できる「定期」の対象年齢外になると、1万円程度かかってしまいます。夏休みを利用して、「定期」の対象年齢の間に、済ませておきしましょう。

【今年度の定期予防接種対象者】
1期：1歳以上2歳未満
2期：平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれ（小学校入学前の1年間）
3期：平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ（中学1年生に相当する年齢）
4期：平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれ（高校3年生に相当する年齢）
※2,3,4期の接種期間は、平成25年3月31日までです。この期間外に接種した場合の費用は、自己負担となりますのでご注意ください。